

グローバルに広がる シチズングループのCSR

— これまでのCSR活動のあゆみ

世界経済は地球規模での拡がりを見せ、企業のグローバル化が急速に進んでいます。

シチズングループも1930年の創立以来、常に世界を視野に入れた事業展開を行い、現在では、売上比率、従業員比率ともに60%を超え、海外子会社も54社とグローバル化は確実に拡大しています。それにとともに、CSR活動のグローバル化も進み、2005年の国連グローバル・コンパクトへの署名を機にさらに拡大しています。

今回の特集では、グローバルに広がるシチズングループのCSR活動のこれまでと現在世界各地で展開しているさまざまな取り組みを紹介します。

創業

腕時計第一号が完成



シチズンがはじめて手がけた機械式紳士用腕時計。当時は懐中時計から腕時計への移行時期。1932年ごろから売れ行きも伸びていきました。数度の構造変更や改良が加えられ、1957年ごろまで製造が続けられました。



1931

社会貢献

国内初の視覚障がい者向け腕時計を発売



1960年、わが国初の視覚障がい者向け腕時計「シチズンシャイン」が発売され、1967年には、世界平和と友情に貢献する国際連合の役割の一助となればとの願いを込め、世界29か国の目の不自由な方々に215個が贈られました。1975年には、創立45周年記念として日本全国の盲学校高等部の在籍者約5,000名全員へ寄贈を行いました。



1960

国際支援

インドへ時計製造の技術援助



1960年、インド政府からの「時計製造に協力して欲しい」という要請によりプラント輸出の技術援助契約を締結しました。以降1980年の第5次契約にわたり、手巻き時計、自動巻き時計、クォーツ時計などの国産化に対して技術指導を行いました。この間インドからの訓練生を多数迎え、またシチズンからは多くの技術者を派遣するなどの交流がありました。



1960

人材育成

第12回技能五輪国際大会「機械製図部門」でシチズン時計 従業員が金メダル



技能五輪国際大会は、職業訓練の振興と参加者の国際親善交流を目的とした技能を競う国際大会です。機械製図部門の競技は、高度な課題が3つあり30時間におよびました。競技期間中におにぎりの差し入れがあり、参加者はとてもうれしかったそうです。また大会では、休み時間にドイツ選手が間違いを指摘してくれるなど、なごやかな雰囲気で行なわれ、国際親善が図られました。



1963

企業理念

年間顕彰制度「シチズン・オブ・ザ・イヤー」創設



市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ・魅力づくりに貢献した市民を選び毎年顕彰する制度です。シチズン創立60周年に際し、社名の「CITIZEN(市民)」にふさわしいものをと1990年に創設されました。これまで、日本人の方ももちろん、日本で市民社会に貢献された外国人の方も顕彰し、新聞やテレビなどでも紹介されている賞です。



1990

国際化

国連グローバル・コンパクトへ署名



グローバル・コンパクトの主旨に賛同し、10原則を企業活動に取り入れ、市民社会の一員としての役割を積極的に果たしていくことに自発的なイニシアティブをとることを国連事務総長に誓い、署名いたしました。この意味は非常に重く、シチズンは海外の事業活動においてもCSR先進企業として取り組むことを誓いました。



2005

環境

光発電エコドライブが腕時計ではじめてエコマーク取得



日本でエコという言葉が一般的に使われる以前の1995年に、シチズンでは太陽電池を搭載した時計を「エコドライブ」と命名しました。1996年に時計としてはじめて「エコマーク商品」に認定されて以来、今日までエコドライブは太陽光発電時計の市場をリードし続けてきました。



1996

技能伝承

厚生労働大臣表彰「現代の名工」をシチズン平和時計 従業員が受章



1967年、平和時計製作所(現シチズン平和時計)に入社して以来43年間、時計のムーブメントの組み立てから完成品組み立てに従事し、2005年には社内規定で最高レベルの「スーパーマイスター」にたどり着き、厚生労働大臣表彰「現代の名工」に認定されました。



2009

